

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学研究科
評価基準 1	理念・目的
点検・評価項目(1)	1-1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
評価の視点	理念・目的の明確化
	設置の主旨や歴史からみた理念・目的の適切性
	個性化・独自性、国際化への対応
点検・評価項目(2)	1-2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(3)	1-3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

1-1	2009 年研究科設立時の理念は、「スポーツや身体活動及び健康や医療に関する諸問題を分野横断的及び学際的な視座から解決するために、人間という視点から適応、行動、健康、医療に関する研究を行い、幅広い視野と高度な知識・技能をもった教員、専門的指導者、及び職業人を社会に輩出することによって人々の健康的な生活や文化的活動に貢献することを目指す。」というものである。教育研究上の目的は、「スポーツ・健康科学研究科修士課程は、スポーツ関連領域と健康関連領域を配置し、スポーツや身体活動および健康や医療に関する分野横断的、学際的な教育研究を行うことで、幅広い視野と高度な知識・技能をもった専修免許を有する教員、各領域の専門的指導者および職業人を輩出することを目的とする。」とされている。個性化・独自性はあるものの国際的な対応が十分ではない。研究科の理念・目的などが記載された英文パンフレットの作成が急務である。
1-2	研究科設立時の理念及び教育研究上の目的などが記載されている設置趣意書を「スポーツ・健康科学研究科年報 Vol. 1」に掲載することで社会に公表、教職員や学生にも周知を図った。また、「教育研究上の目的」は、大学院学則第 3 条の 2 に定められており、さらに、ホームページでも公表され、大学院案内 p30、大学院履修要項 p3 によって教職員・学生にも周知させている。さらに、入学後のガイダンスやオムニバス方式のスポーツ・健康科学研究法の第 1 回目の授業と後期最終授業において、研究科委員長が本研究科の理念及び教育研究上の目的などを学修させている。 しかしながら、その理念・目的が教職員や学生にどの程度浸透しているかについては検証されていない。
1-3	理念・目的の適切性について定期的に検証は行ってこなかった。しかし、設置後 4 年が経過したので、今後は研究科内に将来構想検討委員会を立ち上げ、理念、教育研究上の目的の適切性などの根幹に関わる事項の検討作業に着手すべく計画されている。

【効果が上がっている事項】

1-1	
1-2	
1-3	

【改善すべき事項】

1-1	理念及び目的の適切性など、研究科の根幹に関わる事項の検討作業に着手する。個性化・独自性はあるものの国際的な対応が十分ではない。研究科の理念・目的などが記載された英文パンフレットの作成が急務である。
1-2	実際にどの程度の学生が理念・目的について周知しているかは確認できていないので、今後はアンケートを利用して認知度の調査を行う。
1-3	研究科委員長、専攻主任、委員 2 名で構成されている研究科内の自己点検評価委員会で、学生に対するアンケート調査、もしくは聞き取り調査を実施し、その結果を研究科委員会で報告する。また、その結果を年報に掲載することで社会に公表、教職員や学生にも周知を図る。

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

大学 HP: <a href="http://www.daito.ac.jp/information/about/idea.html">http://www.daito.ac.jp/information/about/idea.html</a> 、大東文化大学大学院学則第 1 条、第 3 条の 2、大東文化大学大学院案内 2013、大東文化大学大学院履修要項 2013
---

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの	評価
------	--------------	----

研究科

			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	理念及び目的の適切性など、研究科の根幹に関わる事項の検討作業に着手するとともに、理念・目的が教職員や学生にどの程度浸透しているかについて定期的に検証するシステムを構築する。	「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」、あるいは「研究科委員会議事録」に検討結果が記載される。	→					
14年度 目標	大学院の手引きに研究科の理念・教育研究上の目的を掲載する。2014年度は、将来構想ワーキンググループを設置し、検討する。	「大学院履修要項 2014」あるいは「大学院の手引き 2014」に掲載されること。「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」、あるいは「研究科委員会議事録」に検討結果が記載される。	→					
	在校生アンケートに研究科の理念・目的を問う設問を付加する。	「スポーツ・健康科学研究科 FD 委員会報告書」、あるいは「研究科委員会議事録」に検討結果が記載される。	→					